

WS-7

それは「学生の問題」か？—アンプロを生む教育環境と構造的課題を考える—

日時：2026 年 6 月 7 日（日）9：00 ～ 12：00

企画：ユニットの会 （ファシリテーター：大槻真嗣（藤田医科大学）、岡崎史子（新潟大学）、岡田英理子（東京科学大学）、岸 美紀子（群馬大学）、小松弘幸（宮崎大学）、西城卓也（岐阜大学 MEDC）、高橋 誠（北海道大学）、西屋克己（関西医科大学）、蓮沼直子（広島大学）、長谷川仁志（秋田大学）、宮地由佳（岐阜大学 MEDC））

対象

医学教育に携わる教員、臨床研修指導医、学生・研修医支援に関わる方。とくに、いわゆる「困った学習者」への対応に難しさを感じている指導者。

概要

本ワークショップは、アンプロフェッショナルな行動（以下、アンプロ）を学習者個人の資質の問題として捉える「個人責任モデル」から脱却し、“困難な状況にある学習者（learner in difficulty）”への視点の転換を図ることを目的とした。アンプロを、個人・対人・組織・文化・制度が相互作用して生じる多層的な「できごと」として読み解く枠組みを共有し、参加者自身の経験の再解釈と、医学教育ユニットとしての介入デザインへとつなげた。理論的枠組みには、Mak-van der Vossen ら¹⁾による 4 I's モデル、4 つの学習者プロファイル、4 つの発生要因、学習者に問う 10 の質問、および対応の 3 フェーズを用いた。

報告概略

45 名が参加した。参加者の職種は医師が 22 名と約半数を占めたが、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、心理職、事

務職員など多職種が参加していた。所属施設は 44 施設にわたり、その内訳は大学・大学院等が 33 施設、病院・医療センターが 6 施設、その他（専門学校、診療所、地域医療支援センターなど）が 5 施設と、全国各地の多様な専門職・機関から参加があった。

導入では、対応に難渋している 5 事例（身だしなみ指導、妊娠の申し出がないまま実施した臨床実習、生成 AI による架空文献の課題提出、実習中の SNS 撮影、出席不正）を提示し、「それは学生の問題か」と問いかけた。

理論の情報提供では、アンプロ学生を“困難な学習者”ではなく“困難な状況にある学習者”へ視点を移す枠組みとして、4 I's モデル（Involvement 関与・参加姿勢／Integrity 誠実性・倫理性／Interaction 相互作用・対人関係／Introspection 内省・自己省察）¹⁾、適応性と省察性の二軸による振る舞いパターン（システムの抜け道を利用する行動／偶発的行動／否認的行動／苦闘する行動）¹⁾、4 つの発生要因（Personal 個人的／Interpersonal 対人関係／Contextual 文脈的・環境的／External 外的）¹⁾²⁾、10 の質問¹⁾、対応の 3 フェーズ（Explore & Understand → Remediate → Gather evidence for dismissal）¹⁾を概説した。

アイスブレイクでは各参加者が自施設の困りごとを共有し、問題が構造的に共通することを可視化した。グループワーク①では各グループが1事例を「行為（4I's）」と「構造的要因（4要因）」の両面から読み替え、②では医学教育ユニットとして誰がいつどう介入するか、不足する記録や根拠、公正なプロセスに必要な支援を検討した。

後半の全体共有では、各班から困った事例の発表とディスカッションの内容が語られ、活発な意見交換がなされた。

全体を通じて、対話による初期対応と記録を基盤に再教育・支援を行い、必要に応じて公正な判定・処遇へ接続する組織的対応のプロトコルを参照しつつ、アンプロを「ひとごと」から「じぶんごと」、そして「できごと」へ捉え直す視点が共有された。関わる人が少ない捉え方は“Failure to Fail”の温床となりうるため、属人的対応から組織的対応へ進める方向性が確認された。

事後アンケート（回答者数 32 名）の自由記載からは、従来の「困った学生」という見方か

ら、学習環境、カリキュラム、組織文化、教員側の要因などを含めて多角的に検討する視点が参加者に伝わったことが示唆された。理論紹介による問題の理解だけでなく、実際の対応や支援プロセスなどの具体的対応を含め、他大学のケース共有と議論の機会が高く評価された。また、アンプロフェッショナルな行動への対応に関する継続的な事例検討や情報共有への強いニーズが確認された。

引用文献

- 1) Mak-van der Vossen M, Teherani A, van Mook W, Croiset G, Kusurkar RA. How to identify, address and report students' unprofessional behaviour in medical school. Med Teach 2020; 42(4): 372-9.
- 2) 西城卓也, 堀田亮, 藤江里衣子, 下井俊典, 清水郁夫, 川上ちひろ. 困難な状況にある学習者へのアプローチを再考する. 医学教育 2022; 53(1): 23-8.

スケジュール

6月7日（日）	
9:00	オープニング（趣旨説明）
9:05	事例提示
9:15	理論の情報提供
9:30	アイスブレイク（自己紹介＋自施設の困りごと共有）
9:45	グループワーク①：事例を構造的に読み替える
10:25	休憩
10:35	グループワーク②：介入デザイン
11:10	全体共有・統合
11:50	クロージング&写真撮影